

町小だより

令和3年
7月26日
No. 659
御免町小学校

みんなで見上げた青空に「ひこうき雲」

～子どもたちの記憶に残る学校をめざして～

校長 藤井 聡

梅雨が明け、刺すような日差しの毎日。青空にはお日様が燦々と輝いています。夏がやってきました。そんな夏の暑い日に、全校児童の記憶に残るであろう出来事がありました。御紹介します。

先日、ある方から連絡があり、世界的エアレース・パイロットの室谷義秀さんが7月19日（月）新潟県内上空を飛行機で飛び、青空に「笑顔」のマークを描くという企画があることを知りました。室谷さんは、「感染症拡大により、ふさぎ込みがちな皆さんに対し、空を見上げて少しでも明るい気持ちになってほしい」という願いから、各地の空に「笑顔」のマークを描いているのだそうです。新発田市上空を飛行するのは、12：50頃だそうです。「時間のやりくりをすれば、子どもたちにこの壮大な計画を自分の目で確かめてもらうことができるな。」「全校児童と職員で、見上げた空に、思い出を刻むことができたなら、どんなに素晴らしいだろう。」そう、考えました。

出勤するとすぐに、この企画を検索して詳細を調べ、資料を準備した後、学年主任を集めました。学期末の忙しい中、予定している学習に支障が出ないように、20分休みの10分を削って昼休みに回せば、この壮大な航空ショーを目の当たりにすることができるかと伝えると、満場一致で大賛成。すぐに、日程変更が決まりました。

12：40過ぎ、給食を食べ終えた子どもたちが続々と前庭やグラウンドに出てきます。瞳をキラキラと輝かせ、口々に期待感を表現しています。しばらくすると、上空を見つめる子どもたちから、「わあーっ！」と歓声が上がりました。そして、子どもたちが指さす先に、「笑顔」のひこうき雲が描かれました。青空に浮かび上がった「笑顔」のマークは、はかなく、あっという間に消えてしまいましたが、いつまでも空を見上げる子どもたち。この夏の日の一瞬の出来事を胸に刻んでいるようでした。

・・・あっという間の航空ショーでした。この時間を生み出すために、陰には職員の理解や協力、そして、何よりも子どもたちへの温かい『思い』があったことを子どもたちの多くは知りません。それでもいいと思っています。こんなにキラキラとした笑顔を見られるのであれば。

私は、子どもたちの姿を見ながら、「子どもたちの記憶に残る学校を創り上げたい！」そんな思いを新たにしていました。子どもたちにとって記憶に残る学校は、安心して過ごせる心の拠りどころになるような学校です。子どもたちが大人になり、様々なことがあったときに、思い出したくなる故郷のような学校。つらいことがあっても、思い出すと元気がよみがえってくる学校。そんな学校を創り上げることができれば……。飛び去る飛行機を見送りながら、そんなことを考えていました。